

- 問1 鎌倉時代の歴史的事象を時系列で並べたとき、源頼朝が征夷大將軍に就任した（1192年）後から、御成敗式目が制定される（1232年）までの間に起きた出来事として正しいものはどれですか。（2014年 沖縄県公立入試 類似）
1. フビライ・ハンが送った大規模な軍隊が、二度にわたって九州北部に襲来し、御家人が防戦にあたった。
 2. 足利尊氏が後醍醐天皇の政治から離反し、京都に光明天皇を立てて武家政権の再興を図った。
 3. 平氏を滅ぼした功績により、源頼朝が全国の国ごとに守護を、公領や荘園ごとに地頭を置くことを認めさせた。
 4. 後鳥羽上皇が幕府を倒そうと挙兵したが、北条氏を中心とする幕府軍に敗北し、隠岐に流された。
- 問2 鎌倉時代初期、相次ぐ飢饉や火災、戦乱といった社会の混乱を背景に、世の中のすべては移り変わるという「無常観」を綴った随筆として適切なものはどれですか。（2018年 山形県公立入試 類似）
1. 徒然草
 2. 方丈記
 3. 古今和歌集
 4. 枕草子
- 問3 鎌倉時代において、將軍と御家人は土地のつながりを仲立ちとした主従関係で結ばれていました。將軍が御家人の領地を安堵したり、新たな土地を与えたりする「御恩」に対し、御家人が將軍に対して果たすべき義務を何と呼びますか。（2022年 福岡県公立入試 類似）
1. 奉公
 2. 守護
 3. 寄進
 4. 地頭
- 問4 承久の乱の後、新たに任命された地頭と荘園領主との間で、土地の支配や年貢の納入を巡る紛争が急増しました。これを受け、1232年に三代執権の北条泰時が、武士社会の慣習に基づいて制定した、裁判の基準となる法典は何ですか。（2023年 広島県公立入試 類似）
1. 武家諸法度
 2. 公事方御定書
 3. 御成敗式目
 4. 十七条の憲法
- 問5 鎌倉時代において、元の皇帝フビライによる要求を幕府が拒否し、二度にわたる元軍の襲来（元寇）が起こるなど社会が緊迫していた時期に、鴨長明によって執筆された随筆は何ですか。（2019年 高知県公立入試 類似）
1. 枕草子
 2. 方丈記
 3. 徒然草
 4. 風姿花伝
- 問6 1221年に起こった承久の乱が、その後の鎌倉幕府と朝廷の関係や社会に与えた影響について説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2016年 茨城県公立入試 類似）
1. 幕府が朝廷への監視を強めるとともに、上皇側に加わった貴族や武士の所領を没収し、そこに多くの地頭を新たに任命したことで西国への支配力を強めた。
 2. 幕府が朝廷の政治実権を完全に尊重することを決め、執権が朝廷の補佐役として京都に常駐することで、公家と武士の対等な協調体制が築かれた。
 3. 戦いに勝利した上皇が幕府の権限を大幅に制限したため、鎌倉幕府の執権政治は衰退し、代わって天皇自らが政治を行う建武の新政へと直接つながった。
 4. 朝廷が幕府の力を利用して全国の土地調査を行う権限を再獲得したため、公地公民の原則に基づいた律令政治が再び行われるようになった。
- 問7 鎌倉幕府を開いた源頼朝が、1185年に朝廷に認めさせて全国の荘園や公領に設置した役職で、土地の管理や年貢の徴収を主な職務としたものはどれですか。（2023年 神奈川県公立入試 類似）
1. 地頭
 2. 守護
 3. 国司
 4. 郡司
- 問8 鎌倉幕府が地方を統治するために設置した「守護」と「地頭」の性格の違いについて、正しい説明はどれか。（2023年 岐阜県公立入試 類似）
1. 守護は幕府の最高役職として鎌倉に常駐し、地頭は地方へ赴任して反乱を鎮圧した。
 2. 守護は朝廷が任命して地方行政を行い、地頭は幕府が任命して軍事活動を行った。
 3. 守護は国ごとに置かれて軍事・警察を担い、地頭は荘園・公領ごとに置かれて管理・徴税を担った。
 4. 守護は荘園・公領ごとに置かれて軍事・警察を担い、地頭は国ごとに置かれて管理・徴税を担った。
- 問9 鎌倉時代に宋（中国）から伝え、座禅を組んで師からの問いに答えながら修行する、幕府や武士に重んじられた宗派を何といいますか。（2016年 岡山県公立入試 類似）
1. 浄土宗
 2. 真言宗
 3. 臨済宗
 4. 曹洞宗
- 問10 マルコ・ポーロが滞在した13世紀後半のモンゴル帝国（元）と、同時期の日本（鎌倉時代）の関係について述べた文として正しいものはどれですか。（2026年 茨城県公立入試 類似）
1. マルコ・ポーロが元の使節として日本を訪れ、鎌倉幕府の執権であった北条時宗と会談した。
 2. 元と日本の間で和平条約が結ばれ、シルクロードを経由して日本にイスラム教が伝来した。
 3. フビライ・ハンが日本に対して服属を要求し、それに応じなかったため二度にわたる元寇（蒙古襲来）が起こった。
 4. 日明貿易（勘合貿易）が盛んに行われ、日本からは刀剣、元からは銅銭が大量に輸入されていた。
- 問11 13世紀初めに、それまで分立していたモンゴル高原の諸部族を統合してモンゴル帝国を建国し、中央アジアまでを支配する広大な帝国の基礎を築いた初代皇帝は誰ですか。（2021年 鳥取県公立入試 類似）
1. フビライ＝ハン
 2. コロンブス
 3. チンギス＝ハン
 4. 始皇帝
- 問12 鎌倉時代の將軍と御家人の結びつきは、將軍が領地を保証・提供する「御恩」と、御家人が軍役を果たす「奉公」という主従関係によって成り立っていました。元寇において、命がけで防衛戦に従事した御家人が、その後幕府に対して強い不満を抱くようになった最大の理由はどのようなものですか。（2022年 島根県公立入試 類似）
1. 他国からの侵略を防ぐ防衛戦であったため、恩賞として御家人に分け与えるための新たな領地が得られなかったから
 2. 幕府が元軍と密約を結び、戦いに貢献した武士ではなく、降伏した元軍の將軍たちに日本の領地を与えたから
 3. 多くの御家人が幕府の出陣命令を無視して戦いに参加しなかったため、幕府が制裁として所領を没収したから
 4. 元軍との戦いよりも貿易の継続を優先した幕府が、恩賞を支払うための予算をすべて外国との取引に回したから
- 問13 鎌倉時代の政治体制において、「執権」という役職が果たした役割の説明として最も適切なものを次の中から選びなさい。（2018年 茨城県公立入試 類似）
1. 地方の軍事や警察の役割を担い、幕府から各国に派遣された役職である。
 2. 室町幕府において將軍を補佐し、足利一族の有力者が就任して政治を支えた。
 3. 將軍に代わって幕府の政治の実権を握り、北条氏が世襲して政務を統括した。
 4. 江戸幕府において將軍の直属として、臨時に最高職に就き国政を左右した。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 後鳥羽上皇が幕府を倒そうと挙兵したが、北条氏を中心とする幕府軍に敗北し、隠岐に流された。	源頼朝の死後、幕府の動揺を見た後鳥羽上皇は1221年に承久の乱を起こしましたが、北条政子や北条義時を中心とした幕府側に敗れました。この乱の勝利によって幕府の優位が決定定的となり、その後の1232年、武士社会の慣習をまとめた「御成敗式目」が北条泰時によって制定されることとなります。
問2	答え 2 方丈記	この作品は鴨長明によって執筆されました。平安時代末期から鎌倉時代初期にかけての激動の時代において、自然災害や源平の争乱を目の当たりにした著者が、世の無常さと執着を捨てた生活を表現した中世随筆の先駆けです。
問3	答え 1 奉公	鎌倉時代の主従関係は、将軍から受ける恩恵である「御恩」と、それに応えて御家人が果たす義務である「奉公」から成り立っています。この関係は、単なる命令系統ではなく、土地の保証を媒介とした双方向の互恵的な関係であったことが特徴です。
問4	答え 3 御成敗式目	承久の乱を経て、幕府の影響力が西日本にも拡大した結果、各地で地頭（武士）と荘園領主（貴族や寺社）の権利を巡る争いが増加しました。北条泰時は、裁判を公平に行い、武士が納得できる独自の基準を作ることで社会の混乱を収めようと考え、この法典を制定しました。これは日本で最初の武家法として、その後の武士の政治に大きな影響を与えました。
問5	答え 2 方丈記	平安時代末期から鎌倉時代初期にかけては、養和の飢饉や元寇などの動乱・災厄が続きました。鴨長明は、こうした混乱する世の中を経験し、世の無常を綴った『方丈記』を記しました。これは『徒然草』などと並ぶ日本三大随筆の一つに数えられます。選択肢にある『枕草子』は平安時代中期、『徒然草』は鎌倉時代末期から南北朝時代、『風姿花伝』は室町時代の作品です。
問6	答え 1 幕府が朝廷への監視を強めるとともに、上皇側に加わった貴族や武士の所領を没収し、そこに多くの地頭を新たに任命したことで西国への支配力を強めた。	承久の乱で幕府側が勝利した結果、敗れた後鳥羽上皇は隠岐へ流されました。幕府は上皇側に味方した貴族や武士から所領を没収し、恩賞として東国の御家人を「新補地頭」として新たに任命しました。これにより、それまで幕府の影響力が限定的だった西日本においても、幕府の支配力が飛躍的に高まることとなりました。
問7	答え 1 地頭	鎌倉幕府が設置した役職のうち、荘園や公領（公の土地）ごとに配置されたのが地頭です。地頭には主に幕府の御家人が任命され、年貢の徴収や土地の管理、地域の治安維持を担いました。一方、国ごとに置かれ、軍事や警察の役割を担ったのは守護です。この地頭の設置によって、幕府の勢力が全国の土地に及ぶようになりました。
問8	答え 3 守護は国ごとに置かれて軍事・警察を担い、地頭は荘園・公領ごとに置かれて管理・徴税を担った。	守護と地頭はいずれも源頼朝が設置したのですが、配置単位と役割が異なります。守護は令制国（現在の都道府県に近い単位）ごとに1人ずつ配置され、地域の武士を統率する軍事・警察権を行使しました。地頭はより細かな単位である荘園や公領ごとに置かれ、実務的な土地管理や税の徴収を担いました。
問9	答え 3 臨濟宗	栄西によって伝えられたこの宗派は、禅宗の一つであり、座禅を組み合わせながら「公案」と呼ばれる師からの問題を解くことで悟りを目指します。自律的な修行を重視する姿勢が、当時の武士の精神に合致したため、鎌倉幕府に厚く保護されました。
問10	答え 3 フビライ・ハンが日本に対して服属を要求し、それに応じなかったため二度にわたる元寇（蒙古襲来）が起こった。	マルコ・ポーロが元に滞在していた時期は、皇帝フビライがユーラシア大陸から勢力を拡大していた時代です。日本へも朝貢を求めましたが、当時の執権・北条時宗がこれを拒否したため、文永の役・弘安の役という二度の侵攻が行われました。マルコ・ポーロはこの遠征計画についても自身の著書の中で触れています。
問11	答え 3 チンギス=ハン	1206年にモンゴル高原の諸部族をまとめ上げ、モンゴル帝国の初代皇帝（大ハン）に即位しました。彼は強力な騎馬軍団を組織して、西は中央アジアのホラズムなどの国々を次々と征服し、後のモンゴルによる世界帝国の基礎を築きました。この帝国の出現により、ユーラシア大陸の東西を結ぶ交通路の安全が確保され、人や物資、文化の活発な交流が生まれることとなりました。
問12	答え 1 他国からの侵略を防ぐ防衛戦であったため、恩賞として御家人に分け与えるための新たな領地が得られなかったから	鎌倉幕府の支配体制は「御恩と奉公」という双方向の契約で成り立っていました。通常、国内の乱などでは敗者から没収した土地を恩賞（領地）として配分できましたが、元寇は外国を追い返す防衛戦であったため、戦勝しても奪える土地がありませんでした。多額の戦費を自ら負担して戦った御家人に対し、幕府が十分な報酬を与えられなかったことが、幕府の権威を失墜させる決定的な要因となりました。
問13	答え 3 将軍に代わって幕府の政治の実権を握り、北条氏が世襲して政務を統括した。	鎌倉幕府では源氏の将軍が3代で途絶えた後、北条政子の実家である北条氏が政治の中心となりました。北条氏は自ら将軍になるのではなく、将軍を名目上の存在とし、自らは執権として幕政を動かす「執権政治」を行いました。なお、選択肢にある「管領」は室町幕府、「大老」は江戸幕府、「守護」は地方行政の役職であり、執権とは役割や時代が異なります。